

区政区議会報告・地域情報を週刊で発行しています。ご意見をお寄せください。



日本共産党荒川区議会議員
斉藤くに子
区政ニュース

メール: arajcp@tcn-catv.ne.jp

区議会 http://www.jcp-arakawakugidan.jp/ くに子ブログ http://s-kuniko.jugem.jp/



2020年7月19日 No.1227号

区役所直通 3802-4627
fax 3806-9246

★無料法律・生活相談会★

弁護士の定例相談は毎月第4月曜18時～

7月27日(月)

★荒川区荒川7-37-1(コミバス花の木停留所前)

Tel/Fax 3806-5134

★生活相談は随時随時に対応します。ご連絡ください。

★別の日程でも弁護士事務所の予約を取りますのでご連絡ください。

コロナウイルスとの関係で定例法律相談は完全予約制として密の状況をつくらないようにしたいと思います。

宜しくお願い致します。

①18:00～18:30

②18:40～19:10

③19:20～20:00

予約は先着順とします。前日までに予約がない場合は中止します。

感染者が出た学校 保育園でPCR検査

全員、陰性で一安心です



7月8日に、区立小学校(大門)と区立保育園(西日暮里)に通

う子どもの感染が確認されたと報告がありました。

7月2日(木) 当該児童/園児の最終登校/登園日
3日(金) 小学生は発熱しかし翌日には回復
7日(火) 親族の感染で検査を実施
8日(水) PCR検査の結果、陽性が判明
二人とも症状なし

区は同小学校の特別支援学級の児童や学童クラブ、にこにこスクールなどでの濃厚接触者100名・同保育園の5才児クラスの園児希望者及び担当保育士など25名のPCR検査をおこないました。結果は全員が陰性で、一安心です。

消毒作業等を行い、小学校支援学級・学童・にこにこスクールは16日まで休校して17日から、保育園は13日から再開しています。集団感染にならず本当に良かったと思います。

感染防止と安心のために 区保健所は、園児は初めから無症状だったことか
検査を速やかに ら「濃厚接触者ではない」として「保育園の検査や関係者の自宅待機は不用」としていました。

万一のことも考え、保護者の不安を取り除くためにも検査を至急行うべきと、現場の保育士も私たちも強く申し入れました。結果、急遽行うことになりました。

荒川区内の、しかも区立での感染確認ですから、全庁的に素早い意思統一と対応が求められると思います。

保健所は国立感染研究所の基準に従って濃厚接触者の有無を判断し、濃厚接触者のみのPCR検査実施としていますが、区民の不安解消は出来ません。区独自の方針を持ち、独自検査を行うことを求めています。



濃厚接触者の基準

コロナが疑われる症状を示した日の2日前から、患者さんとの距離が1m以内で、マスクなどで口元が覆われていない状態で15分以上会話した人



老健施設ひぐらしの里での コロナ感染拡大のその後は

「入所者88名中24名」先週のニュースで入所者の感染は22名とお伝えしました
「職員222名中7名感染」

が、その後PCR検査で陰性だった方で発熱があり、再検査を行ったところ、7月10日と11日で2名の方の陽性が判明し、7月14日現在で入所者24名(区内在住17・区外7)、施設と病院関係職員222名中7名の感染となりました。全て3階フロアーの入所者とスタッフでした。31名中8名は治療が終了し回復しています。

感染経路はまだ明確にならず 感染経路については、入所者の中からも考えられているようですが、明確な答えは出ていません。最後の陽性者が判明してから14日間、新規患者がなければ終息とみて事業の再開が検討されます。

関川病院では感染者なし

病院入院患者については全員の検査は行っていませんが、医師の判断で疑われる症状がある場合は検査を実施。

検査数は明らかではありませんが、結果は全員、陰性とのことでした。

入院の疾患に伴う症状もあり、コロナ疾患を疑うタイミングが遅れると見逃すこともあるので、患者さんの病状をしっかりと観察することが、これまで以上に大事になります。

緊急時の介護スタッフの応援体制を 老健の介護スタッフは24名です。そのうち7名が感染し、法人・系列グループの支援で日常介護を乗り切っているようです。

国の第一次補正予算で「介護職員などの応援職員確保の経費が盛り込まれました。

通常でも職員体制が大変です。今回のように高齢者施設でのクラスター発生に備えた対策を事業所任せにせず、整えておくことも必要です。

関係者の検査は公費でやるべき

今回、施設入所者と介護・医療スタッフ全員のPCR検査を行いました。通所リハや訪問リハの利用者に対する健康確認と合わせて、希望者へのPCR検査などを区は法人に要請しています。

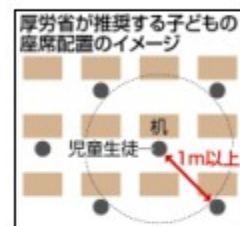
区として検査費用をきちんと出すことを求めました。

また、WHOも要介護者や介護職員と対象とした検査、モニタリングシステムの優先的導入を言及しています。介護関係団体も職員のPCR検査を求めています。

区内感染拡大の防止として、施設と在宅を支える職員等の検査を公的負担で行うことも求めました。



コロナ禍のもとでも学校選択の実施は？



来年度入学についても、これまで通りの学校選択制度(小学校は隣接区域・中学校は自由選択・汐入小と三中は除く)を実施するとの報告がありました。

今年5月1日現在の小学校の人数とクラス数及び一クラスの人数(瑞光地区と峡田地区)は下記のようになっています。

172クラスのうち、31人以上は97クラスもあります。コロナ禍のもとで教室の密をなくすためには20人程度と言われていますが、20~23人のクラスは13クラスしかありません。



荒川区の小学校全体では296クラス中147、中学校では97クラス中68が31人以上です。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
○ 瑞光	100 3(33・34)	90 3(30)	97 3(32・33)	96 3(32)	90 3(30)	98 3(33・32)	571
第二瑞光	40 2(20)	20 1(20)	42 2(21)	23 1(23)	33 1(33)	32 1(32)	190
第三瑞光	107 4(27・26)	119 4(30・29)	124 4(31)	107 3(36・35)	106 3(36・35)	72 2(36)	635
汐入	133 4(33・34)	121 4(30)	113 3(38・37)	117 3(39)	137 4(34・35)	138 4(35・34)	759
汐入東	98 3(33・32)	96 3(32)	124 4(31)	139 4(35・34)	146 4(37・36)	155 4(39・38)	758
第六瑞光	13 1(13)	19 1(19)	16 1(16)	14 1(14)	11 1(11)	12 1(12)	85
○ 峡田	67 2(34・33)	64 2(32)	63 2(32・31)	66 2(33)	60 2(30)	57 2(29・28)	377
第二峡田	61 2(31・30)	51 2(25・25)	58 2(29)	49 2(24・25)	46 2(23)	60 2(30)	325
第三峡田	32 1(32)	19 1(19)	24 1(24)	27 1(27)	16 1(16)	20 1(20)	138
○ 第四峡田	65 2(32・33)	51 2(25・26)	58 2(29)	61 2(30・31)	59 2(29・30)	63 2(31・32)	357
第五峡田	62 2(31)	73 3(24・25)	82 3(27・28)	96 3(32)	62 2(31)	81 3(27)	456
第七峡田	57 2(28・29)	50 2(25)	58 2(29)	42 2(21)	59 2(29・30)	70 2(35)	336
第九峡田	34 1(34)	28 1(28)	29 1(29)	35 1(35)	33 1(33)	35 1(35)	194

○は今年度の抽選校 各学校の上段はクラス児童数；下段はクラス数(一クラスの児童数)

感染拡大防止の点でも、現在の40人学級制(80名なら40名2クラス・81名なら27名の3クラスとなる)は無理が出ます。今、一番長く座っている授業の席は行政の責任で、身体的距離の保障を確保することが求められます。

全国連合小学校長会会長は「ウィズコロナ時代では20~30人が適当」また全国知事会、全国市長会、全国町村会の地方3団体は現在の小・中学校の40人学級では新型コロナウイルスの感染予防ができないとして「公立小・中学校の普通教室の平均面積は64㎡であり、少人数学級の実現へ教員の確保が是非とも必要」だと訴えています。

今年度、瑞光小・峡田小・四峡小・尾久小・赤土小・ひぐらし小・八幡中・南二中が抽選になっています。学校選択で目一杯にしているのか考えるべきではないでしょうか。荒川区として、選択制は一時ストップして、少人数学級を全体にすすめるための方針を持つべきだと思います。



フィンランドの学校を見てみよう

外務省のホームページに「世界の学校を見てみよう」があり、そこに掲載されていた学校の様子です。

日本との、あまりの違いにびっくりしますね。

平均的な生徒数は多くても20人程度です。フィンランドの先生は、一人一人をみるのに、20人でも多いと話をしているようです。

学校再開直後の「分散登校」では、各地の学校で一時的に十数人の授業となりました。

「子ども一人ひとりの表情がよくわかる、コミュニケーションもとれる」「一人ひとりの勉強のつまずきを丁寧にみられる」などと先生たちが話していました。少人数学級が手厚い教育、柔軟な教育にいかにか有効かが、全国の経験となりました。

他国で出来て、日本で出来ないことはありません。政府の教育に対する考え方の違いではないでしょうか。



校舎。通常カフェテリアとして使用されているホール



1~2学年のフィンランド語の授業風景



3学年の授業風景。ジャガイモでカラフルなスタンプを作成中



職員室



7学年の美術の授業風景

日本共産党逗子市議団のホームページに2017年3月28日に海軍補助施設内の小学校を視察した報告が掲載されています。

『幼稚園から低学年(~3年まで)は18人学級、4年5年は25人学級で、見学した教室には、教師と補助教員の二人体制で授業が行われていました。』

いじめなど児童をめぐるとの問題への対応は、心理カウンセラーが年二回、全校生徒と面談する体制ということでした。建物の屋上には、周辺に配慮しも庭園が設置され、体育館に舞台もあり、普段は大型のパーテーションで二つに分けられ、食堂と軽運動場になっていました。図書室には、専任の図書教員が配置もされていました。』

アメリカ軍基地内の学校(小学校の教室の広さは平均80㎡)は日本国民の税金「思いやり予算」でつくっています。

